

創造性と革新性を追求する世界最古のシャンパーニュメゾン「ルイナール」  
「KYOTOGRAPHIE 2026」で柴田早理氏の個展「Dotok Days」を開催中  
シャンパーニュとアートが響き合う、週末限定「ルイナールバー」をオープン



MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社（東京都千代田区神田神保町）が取扱うシャンパーニュメゾンルイナールは、2026年4月18日（土）から5月17日（日）まで「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026」（2026年4月18日（土）～5月17日（日））のメインプログラムとして、京都市東山区のギャラリー「ASPHODEL」にて写真家・柴田早理氏の個展「Dotok Days」を開催中です。

### ルイナールとアートの歴史

1729年に誕生した世界最古のシャンパーニュメゾン ルイナールは、シャンパーニュとアートに共通する創造性や革新性を追求し、アートとの豊かな関係を築き上げてきました。19世紀末にはアール・ヌーヴォーを代表するアーティスト、アルフォンス・ミュシャとコラボレーションし、ポスターを制作。2000年以降も世界中のアーティストとの協業プロジェクトを継続し、年間30以上のアートフェアへの協賛を通じてアートシーンを支え続けています。

KYOTOGRAPHIEにおいても、2016年より協賛を開始し、2021年には国内の若手アーティストの発掘と支援を目的としたアワード「Ruinart Japan Award（ルイナール・ジャパン・アワード）」を創設。本アワードでは、受賞者はフランス・ランスにあるルイナールのメゾンに招かれ、「アーティスト・イン・レジデンス・プログラム」を通じて、シャンパーニュ造りの現場や自然との関わりを体験しながら滞在制作を行い、翌年のKYOTOGRAPHIEのメインプログラムとして新たな作品を発表します。

### 「Dotok Days」 — 人間と自然が重なり合う時間をたどる

「Ruinart Japan Award」2025年の受賞者 柴田早理氏は、2025年夏以降、フランス・ランスのルイナールメゾンに滞在し、制作に向き合う時間を重ねました。本展では、そのレジデンスで得たインスピレーションから生まれた新作シリーズを発表しています。会場の空間演出は、APLUS DESIGNWORKSの小高未帆氏が手がけました。

柴田氏の作品が紡ぐのは、女性がまるで葡萄のように成長し、成熟していく物語——メゾンを囲む畑や森のなかで感じた季節のうつろい、土地に根を下ろした人間の営み、そして故郷に伝わる伝承を着想源に制作された作品群です。自然と人間を対立するものとしてではなく、互に関係し合いながら時とともに過ごしていく——柴田氏の「人間」と「自然」に対する瑞々しいまなざしが、作品の随所に反映されています。

## 展示会場の様子



## ルイナール インターナショナルアート&カルチャーディレクター／コミュニケーションファビアン・ヴァレリアン コメント

ルイナールは1729年に誕生した世界最古のシャンパーニュメゾンであり、日本との歴史もとても古く、1861年までに遡ります。またアートとの関りも古く、19世紀の終わりから様々なアーティストへの支援を続けてきました。KYOTOGRAPHIEとの協業は創設時からになりますが5年前からはルイナール・ジャパン・アワードという形で才能ある日本人のフォトグラファーの方の支援を行っております。今年はさらに進化を遂げ、ルイナール・ポートフォリオ・アワード2026も加わります。今回、柴田さんの作品には、Circle of Life（人生の円環）をテーマに、「光」がとても美しく描かれています。光を追いかけ続けてきた柴田さんの作品をぜひご堪能いただけたらと思います。



## 柴田早理氏コメント

今回、セルフポートレートという形で自分というフィルターを通じて人の一生を描きながら人生を通過させていく手法を取りました。ランスのルイナールメゾンを訪れた際に感じた土壌の豊かさや太陽の恵みは、そのまま私自身の故郷の人々を思い起こさせました。代々受け継がれてきた畑と共にある営みは日本もフランスも同じだと思ったのです。さらに人がこの世に生まれてから亡くなるまでの一生を円環構造と捉えたとき、人は平等に光になると捉えられるのではないかと考えました。光は日常に溢れていて、同じ太陽が私たちに日々の営みをもたらしている。地球上のどこにいても、私たちは同じ光を共有している。地球をめぐっている光。私たちも何か大いなるもの、円の中にあるもののひとつであるということを作品を通じて感じていただけたら嬉しいです。

### 柴田早理 (Sari Shibata)

富山県生まれ。南砺市の山あい生まれ育つ。立教大学現代心理学部卒業後、IT 企業の金融部門での業務に従事。2025年に南砺市に住居兼アトスペースとして古民家「OSHITOPIA」を開設。これまでインドネシアのプランテーション、アフリカ、モンゴルの草原地帯、タイの山岳地域など多様な土地を訪れ、現地での体験をもとに作品を制作。主に人間と自然の関係、環境の変容、そしてグローバルな経済社会がもたらす影響を主題に、国内外での発表を行っている。



### 五感で楽しむルイナールの世界

「KYOTOGRAPHIE」開催中の土日祝には、ルイナールのシャンパーニュをグラスおよびボトルでお楽しみいただける「ルイナールバー」もオープン。土壌の個性を映し出すシャンパーニュのテイस्टイングを通じて、アートとワインの奥深い関係性を感じることができます。

期 間：4月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、29日(水・祝)、  
5月2日(土)、3日(日・祝)、4日(月・祝)、5日(火・祝)、6日(水・祝)、  
9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)

時 間：11:00～19:00

会 場：ASPHODEL内

価 格：ルイナール ブラン・ド・ブラン グラス 3,000円 (税込)・ボトル20,000円 (税込)

ルイナール ロゼ グラス 3,000円 (税込)・ボトル20,000円 (税込)



### 「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026」開催概要

- ・ 名 称：「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026」
- ・ 期 間：2026年4月18日(土)～5月17日(日)
- ・ 会 場：ASPHODEL (京都府京都市東山区末吉町 99-10)
- ・ アーティスト：柴田 早理 氏
- ・ タイトル：「Dotok Days」
- ・ 展示内容：写真、インスタレーション
- ・ 時 間：11:00～19:00 ※入場は閉館の30分前まで
- ・ 休館日：4月21日(火) 28日(火) 5月12日(火)
- ・ 公式ウェブサイト：

<https://www.kyotographie.jp/programs/2026/sari-shibata/>



### Ruinart Portfolio Award 2026 (ルイナール・ポートフォリオ・アワード 2026)

フランス最古のシャンパーニュメゾン ルイナールが主催する、日本国内のアートやデザイン分野における若手アーティストやクリエイターの発掘と支援を目的としたアワード。

本年度より、アワードがより進化し、従来の「Ruinart Japan Award 2026」はこれまでどおり「アーティスト・イン・レジデント・プログラム」への参画と翌年の KYOTOGRAPHIE での展示を行う他、新進気鋭のアーティストを表彰する「Ruinart Portfolio Award 2026」が新設されました。受賞者には賞金 60 万円が授与されます。栄えある第 1 回目の「Ruinart Portfolio Award 2026」受賞者には、**栢木功 (Isao HASHINOKI) 氏**が選ばれました。また KYOTOGRAPHIE 2026 会期中には、「Ruinart Japan Award 2026」の受賞者の発表も予定されています。

### KYOTOGRAPHIE 2026 関連プログラム 柴田早理 個展「COSMO PLASTICS」 東京・東條會館写真研究所で開催中

2023年、柴田早理氏がサテライトプログラム「KG+SELECT」で発表し、注目を集めた「Anthropocene Plastics」を再構成した作品群を展示しています。「Dotok Days」とも通底する視点から、東京でもその世界観に触れられる機会となります。

期 間：2026年4月4日（土）～6月7日（日）

会 場：東條會館写真研究所（東京都千代田区麹町1-6-12）

時 間：13:00～18:30（木・金のみ～19:30）

休館日：月・火・水曜（祝日の場合はオープン）

### 「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026」について

世界屈指の文化芸術都市・京都で毎年春に開催される日本でも数少ない国際的な写真祭。14 回目となる今回のテーマは「EDGE (エッジ)」。

写真というメディアは誕生以来常に周縁に位置し、記録と芸術、真実と虚構のあわいを揺れ動いてきた。この「あわい」を描き出すような、国内外の 14 組のアーティストの展示を開催。会場は、京都文化博物館別館、京都市京セラ美術館、東本願寺 大玄関ほか、京都市内計 12 会場

公式ウェブサイト：<https://www.kyotographie.jp/>



### ルイナールについて

1729 年創設以来「シャンパーニュの宝石」と謳われる世界最古のシャンパーニュメゾン。コート・デ・プランとモンターニュ・ド・ランスで収穫された最高品質のブドウを巧みに選定し「清らかさ」「繊細さ」「上品さ」を追求した、その繊細でフレッシュ、丸みのある豊かな味わいを引き出して高度な技術を有するシャンパーニュ作りのエキスパートであることから「シャルドネ ハウス」として、その地位を確立してきました。熟成には、1931 年フランス歴史的建造物として指定された、ガリアローマ時代の白亜質の石切り場跡「クレイエル」を使用。熟成に理想とされる一定の温度と、適度な湿度を保つ環境下で繊細、且つ清らか、上品なルイナールスタイル「シャルドネの芸術」を完成させます。

公式ウェブサイト：<https://www.mhdkk.com/brands/ruinart/>

Kyotographie 期間中に京都でルイナールをお楽しみいただける店舗さまはこちら：

<https://www.ruinart.com/en-int/kyotographie2026.html>

